

第2回 大牟田市立学校適正規模・適正配置検討委員会（摘録）

【日時】 令和5年7月18日（火） 15:00～17:30
 【場所】 北別館4階 第1会議室
 【出席者】 検討委員会委員 16人（欠席3人）
 教育委員会事務局 7人

【次第】 司会：学校再編推進室主査

1 開会

2 議題

（1）第1回 大牟田市立学校適正規模・適正配置検討委員会の摘録について

発言者	発言内容
委員長	<p>議題に入る前に、会議の公開・非公開について皆さんにお諮りをします。前回事務局からは、会議は原則として公開するものとする説明がありました。</p> <p>従いまして、本日の会議も原則公開で進めたいと思いますが、状況によっては、会議の途中であっても、公開・非公開の取扱いを皆さんにお諮りすることもあります。</p> <p>このような取扱いでよろしいでしょうか。</p>
全委員	異議なし。
委員長	<p>それでは、会議次第をご覧ください。本日の議題は3つあります。この次第に沿って進めて参りますのでよろしくお願い致します。</p> <p>初めに、議題1、第1回の検討委員会の摘録についてです。</p> <p>皆さん、事前に送付された摘録について、既に確認をいただいていると思いますが、前回事務局から、この会議摘録は、検討委員会の承認を経た後に公開すると説明がありました。</p> <p>そこで、この摘録の取扱いについて2点、お諮りをいたします。</p> <p>まず1点目は、摘録の内容に修正等がなければ、この内容が市の情報公開センター、それからホームページで公表されることとなります。</p> <p>それから2点目は、この摘録には議事の経過及びその結果を明確にするために、2人の委員に署名をお願いしたいと思います。</p> <p>署名の委員を「後藤副委員長」と「西田委員」のお2人をお願いしたいと思います。</p> <p>以上の2点について、皆さんよろしいでしょうか。</p>
全委員	異議なし。
委員長	<p>ただいま承認されましたので、この内容で公表させていただきます。</p> <p>また、2人の委員におかれましては、会議終了後、それぞれ署名をお願いいたします。</p>

（2）第2期実施計画の進捗整理と今後の学校再編整備の考え方について

- ①中友小学校と明治小学校の再編
- ②白川小学校と平原小学校の再編

③義務教育学校

④夜間中学

発言者	発言内容
委員長	<p>本日の議題に入る前に、前回の振り返りを簡単にしたいと思います。</p> <p>前回の検討委員会では、大牟田市教育委員会から大牟田市立学校適正規模・適正配置計画第2期実施計画に係る進捗整理、及び今後の学校再編整備について諮問を受けました。</p> <p>具体的な諮問内容は、次の4点です。</p> <p>1点目が中友小学校と明治小学校の再編、2点目が白川小学校と平原小学校の再編、3点目が義務教育学校、4点目が夜間中学、この4点について事務局から説明を受け、質疑等を中心に協議を行いました。</p> <p>本日は、前回お知らせのとおり、第2期実施計画の進捗整理と今後の学校再編整備の考え方について、協議をしたいと思います。</p> <p>第1回の検討委員会では、事務局から、中友小学校と明治小学校の再編、及び白川小学校と平原小学校の再編について、整理する内容の説明を受けました。</p> <p>今回その整理項目について、皆さんと確認をしていきたいと思えます。</p> <p>まず、①の中友小学校と明治小学校の再編については、平成26年策定の適正規模・適正配置計画、前計画において、平成35年4月を目標に再編する計画でした。</p> <p>また、この前計画で再編予定だった松原中学校が、第2期実施計画、現計画において、継続して活用すると変更されました。</p> <p>このことよって、松原中学校の通学区域が、大正小学校と中友小学校の通学区域全域となるため、必然的に中友小学校と明治小学校を再編する理由がなくなるということでした。</p> <p>①については以上のように整理ができると思いますが、皆さんいかがですか。</p>
全委員	異議なし。
委員長	そのまとめとして、中友小学校と明治小学校の再編については、計画を見直すということでまとめたいと思いますが、よろしいでしょうか。
全委員	異議なし。
委員長	<p>確認ができました。</p> <p>次に②の白川小学校と平原小学校の再編については、これも平成26年策定の前計画では、平原小学校の小規模化が進行しているために、市全体の小学校再編より先行して検討するとしていました。</p> <p>しかしながら、前回の説明でもあったように、平原小学校周辺の宅地造成が進み、児童数が増えたことから、学級数が一定規模で維持されているということでした。</p> <p>このような状況から、白川小学校と平原小学校の再編については、前倒しをすることなく、第2期実施計画、現計画のとおり、令和7年度に検討委員会を設置し、改めて検討するということが整理ができると思えます。よろしいでしょうか。</p>
全委員	異議なし。

委員長	そのまとめとして、白川小学校と平原小学校の再編については、前倒しすることなく、令和7年度に小学校再編の次期計画の中で、改めて検討するという事でまとめたいと思いますが、よろしいでしょうか。
全委員	異議なし。
委員長	<p>以上、整理項目の確認ができました。</p> <p>前回の会議において、委員から義務教育学校と夜間中学について、この場にお2人の委員がおそろいですので、その内容を詳しくお話していただく機会を設けていただきたいとの要望がありました。</p> <p>そこで、事務局から2人の委員にお願いしていただき、快諾を得ましたので、委員に義務教育学校を、続けて委員に夜間中学を、それぞれ実践を交えたご説明をお願いしたいと思います。</p> <p>その後、休憩を挟んで、それぞれに質疑を行いたいと考えています。</p> <p>それでは、まず義務教育学校について、委員から説明をお願いいたします。</p>
委員	<p>福岡県教育庁教育振興部義務教育課で主任指導主事をしております。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>前回の会議で「広報ふくち」のカラー版を用意していただきましたので、そちらを使って、義務教育学校の概要につきまして、ご説明をさせていただければと思います。</p> <p>前回も少し話をしたと思いますが、私は今の立場になる前の令和2年から3年度の2年間、福智町立金田義務教育学校の初代校長をさせていただきました。</p> <p>校長になる前の2年間は、福智町教育委員会で、いわゆる設置準備の関係の仕事をする、主幹指導主事という立場で仕事をさせていただき、義務教育学校の立ち上げ、内容など色々なものについて準備をして、そのまま校長をしたという経緯がございますので、少し参考になる話ができるかと思えます。</p> <p>それでは、お手元の「広報ふくち」のカラー版により説明をさせていただきます。</p> <p>まず最初に、表紙を見ていただければと思います。そこに、子どもたちが写っている写真があるんですが、義務教育学校では、小学校・中学校とは当然呼びません。実は法律で決められており、学校教育法第49条の5で、いわゆる小学校段階の子どもたちは、義務教育学校の前期課程という言い方をします。中学校段階の子どもたちは後期課程です。表紙を見てもらうとわかるんですが、前期課程の子どもが6人と、後期課程の子どもが3人いるのがわかりますでしょうか。</p> <p>実はこれは実際に教えてるシーンではなく、広報用に作った写真で、この時はコロナ禍だったので、みんな直前までマスクをしていまして、この写真を撮るときに外して撮ったという経緯があります。</p> <p>広報ふくちの担当者といろいろ話をする中で、義務教育学校として理想的な姿は何かというと、やはり後期課程の子どもたちが、前期課程の子どもたちと触れ合いながら、勉強を教えたり、色々な指導したり、こういう姿が理想的ではないかということで、この表紙を作ったという経緯がございます。</p> <p>なかなかこの2年間は、コロナで活動も思うようにできなかったという苦労もありました。</p>

それではご説明をさせていただきます。

1枚めくっていただくと、校舎の全体像の写真が出てくると思います。

金田義務教育学校は、前身が金田小学校と金田中学校、一小一中が一緒になって義務教育学校になりました。

ここにある校舎の場所は、元の小学校と中学校とは全く別の場所で、新たに土地を町が買い上げて、建てたという経緯がございます。

現実的な話をしますと、小学校も中学校も非常に老朽化が進んでおりまして、耐震工事はしたんですが、建て替える必要性がかなり高い校舎で、色々な不具合もある校舎だったので、今回この義務教育学校を立ち上げるという構想も、校舎面でも理由があったというのが、裏事情としてはございます。

福智町は田川郡の中にあるんですが、もともとは方城町、赤池町、金田町の3つの町が合併してできた町になります。それぞれの町にそれぞれ1中学校と、金田だけが1小学校で、他の中学校には2小学校ずつございました。

その中で、これも裏話になるんですが、赤池町と方城町の校舎は比較的綺麗なんです。建て替えて新しい福智町になったんですが、金田だけはなぜか建て替わらないまま新町になって、校舎を建て替える必要ができたというのが経緯としてはございました。

それぞれの中学校区で、旧町ごとに小中一貫教育を実際に行っておりました。ですから、小中連携教育の理想的な姿を求めて、ある意味モデル学校を作ろうという構想の中で、町として一つの思いの中で、金田義務教育学校を立ち上げたという経緯がございます。

令和2年度4月から開校したんですが、工事が遅れ、実際に新しい校舎に入ったのは、2学期の8月31日からになりました。ですから、新しい学校になったものの、1学期間はそれぞれの旧校舎を使って、金田小・金田中のバラバラの生活で始まったという経緯がございます。

中学校の、いわゆる後期課程の子どもたちの通学は心配してなかったのですが、前期課程の子どもたちは、通学経路が変わります。

通学は、集団登校を促していたんですが、下校はそれぞれ学年バラバラになりますので、そこが一番の懸案事項で、子どもたちの登下校をどう守るかということで、1学期の間に2回程度登下校の練習会を行いました。

その時、初めて新校舎に入った前期課程の子どもたちが、うわーすごいと目を輝かせながら入ってきたことが、非常に記憶に残っています。新しい校舎に入るというのは、これだけ子どもたちの心を揺さぶるんだというのをその時感じたのを覚えています。

私はもともと中学校の教師で、義務教育学校になるまでは小学生と一緒に過ごしたことはなかったんですけど、色々な新しい発見がこの学校ではありました。

それでは1枚めくっていただいて次のページをご覧ください。

このページでは、広報ふくちの職員が、ご自身でも一生懸命勉強されて、義務教育学校とは何だろうというところを町民の方にわかりやすく説明するために作ったページです。非常に参考になるのではないかなと思います。

ちょっと調べてきたんですが、令和4年度の段階で、全国で178校、義務教育学校があるということです。

令和3年度から4年度にかけて、全国で27校新しく作られております。

全国的な動きを言いますと、令和3年度から4年度にかけて、廃校になっている学校が多いです。小学校で175校、中学校では64校が廃校になっております。子どもが少なくなっているという事情だと思います。

その中で、逆に義務教育学校が27校新しく作られているというところが、義務教育学校に携わった人間からすると、必要感が高まっているのかなと感じたところです。

福岡県でも、令和5年度4月になって、福智町に近い嘉麻市で新たに3校、義務教育学校が立ち上がりました。筑豊地区では、嘉麻市の3校と、金田義務教育学校と、もう一つ香春町にも1校ありますので、5校の義務教育学校がある形になっております。

小・中学校と義務教育学校の一番の違いは何かというところで、『その最大の相違点は、1人の校長のもと一つの教職員集団が9年間を通して、同じ「教育方針」と「教育目標」を見据え、全教職員が共通理解の上で教育ができる』というところが、小学校・中学校それぞれの校長と一番違うところかなと思います。

それから、良さとして書かれているところとして、『義務教育学校の持つ利点を生かし、国内では新たな独自教科を作成したり、「4年－5年制」や「4年－3年－2年制」など「6年－3年制」にとられない区切りの学校もあります。このように、柔軟な教育を行える「義務教育学校」が持つ可能性は幅広く、新たな環境に馴染めず不登校などの原因となる「中1ギャップ」の解消や「タテの関係」の強化、小・中学校の枠を超えた授業の実施が可能になります。また、校舎が同じという利点を生かした異学年交流も積極的に進めることができるため、児童・生徒らの人間関係の広がりや上級生のリーダーシップの醸成と、その発揮が期待されています』ということです。例えば国で、5、6年生の教科担任制ということが盛んに言われて、今やっている学校も出てきていますが、小・中の先生方が一緒に校舎にいますと、いわゆる中学校の後期課程の方から、5、6年生に教えに行くことも、時間割の組み方次第で簡単にできるようになります。

だからある意味、色々な子どもたちに色々な教員がかかわれるというメリットもあるのかなと思います。

それでは1ページめくっていただいて、校舎の見取り図が載っていると思います。

これは義務教育学校の特徴というよりは、金田義務教育学校をどうしていきたいかというところで考えたコンセプトを見据えながら、校舎の設計や配置をさせていただいているんですが、一番こだわったのが、1階2階3階の子どもたちの配置です。

どのように並べたかといいますと、1階が1、2年生、2階が3、4年生、3階が5、6年生、そして、3階に7年生を置いて、2階を8年生、1階に9年生という配置にしました。子どもたちは入学してくると1階から始まって上に上がって、また下りてくるという形にあえてさせていただきました。また、9年生は進路がかかわってくるので、職員室の近くに置きました。

教室配置には、大きく2つのねらいがありました。

1つは、5、6、7年生を同じフロアに置きたかった、これは中1ギャップ対応です。いわゆる小学校から中学校、前期課程から後期課程に行く時の環境的な隔たりをできるだけ少なくして、同じフロアで生活ができて、すぐ生活が見えるという環境を作りたいというのが1つのねらいです。

もう1つは、フロア交流を活発にしたかった。9年生に1年生を世話させたかったんです。どういう考え方から来ているかというと、ピアサポートという考え方がある、異学年交流をするときに、できるだけ学年が開いた差のある学年を交流させた方が効果が高いと言われております。小学校

では6年生が1年生のお世話活動をされていると思いますが、それを義務教育学校では、9年生に1年生のお世話をさせる、モデルとなるというところがねらいとしてありましたので、こういう配置にしたという経緯がございました。

これは義務教育学校とは違う金田のこだわりということで説明をしたいと思います。一番ねらったのは、9年生の自己肯定感です。9年生が1年生のお世話をすることによって、自分たちが必要とされているとか、自分たちがリーダーなんだという思いを植え付けたかったという思いでこういう校舎配置にしたという経緯がございました。

それではもう1枚めくっていただいて最後のページになります。

最後にインタビューを受けて、生徒会長、児童会長、私も少し登場させていただいているんですが、その上に一般の町民の方々がどんなところに疑問を持つだろうということでQ&Aを作っていただいています。

これも義務教育学校というよりは、金田として独自に行ったものもいくつかありますので、少しご紹介できればと思います。

学校生活の疑問ということで、「登下校の時間は異なるの？」ですが、登下校時間を統一させました。実は小学校と中学校は、もともと登下校の時間が違ったんですが、あえて合わせました。統一することによって、一緒の時間帯に小学校・中学校の子どもたちが一緒に登校できるんです。中には、中1の子で小学校1年生の妹がいて、手をつないで登校している姿もありましたので、これは安全性も含めて、とってもよかったです。

それから、授業時間もできるだけ変えないでおこうということで、1～6年生45分、7～9年生50分で、そのまま行いました。ですから、必然的にチャイムが鳴らせませんので、チャイムなしの生活をずっと続けております。

教科担任制を進めようとしていましたので、将来的には5、6年生も50分授業にして、校時を合わせてということも少し考えたんですけど、子どもたちの負担やコロナ禍のことも考えて、いまもまだこの体制でやっているということでした。

それから「転出・転入学はできますか」ということで、前期課程が修了すると小学校が修了という形はとれますので、できると答えております。

制服も、同じ制服をそのまま後期課程のみ着ていました。

体育会は、体力差が余りにもありすぎるので、前期と後期別々に行っております。修学旅行も、後期課程だけではなく、6年生でも修学旅行に行かせております。

それから、一番の特徴は入学式・卒業式です。義務教育学校になって、一番質問が多かったんですが、入学式は1年生の入学式のみです。卒業式は9年生のみです。ただし、6年生には、前期課程を修了したという証書を渡す必要があります。いわゆる小学校段階が終わったというのを証書として渡す必要が法律上決められておりますので、3月24日の終業式が終わった後に、前期課程修了式というのを6年生だけ、保護者を呼んで行いました。

この時には、7年生から着る制服を基本的には着用させて、いわゆる入学式の代わりという形で、保護者等が写真を撮れるように、保護者を呼んで行いました。

これがQ&Aの中身になります。

最後に、私が義務教育学校の校長として、すばらしい学校にしたいという思いで、いつも先生方に伝えていたのは、2つのキーワードを大事にしましょうという話をしていました。そのキーワードは、1つは「憧れ」、も

	<p>う1つは「ゴールイメージ」です。憧れとゴールイメージを大事にしなが ら、みんなで学校を作っていきたいと思いますと言っていました。</p> <p>憧れというのは何かというと、子どもたちが、自然にあんな9年生にな りたいという、本当に9年生が自立した大人になったという姿を見せられ るかどうかです。だからそんな9年生を全教職員で育てていくという思い で学校を作りましようと言いました。</p> <p>もう1つ、ゴールイメージというのは、憧れと重なるんですが、すべて の先生方がどんな姿に育て欲しいか、この子どもたちが9年後どんな姿で卒 業して欲しいかという同じゴールイメージを持って、日々教育をしていき ましようということです。</p> <p>それは、後期課程の先生だけではなく、1年生の子たちにとっても、9 年後どういう姿で卒業してほしいかというイメージをもって教育をしまし ようということで、私はゴールイメージとしては「社会人基礎力」を身に つけていくことが必要だと感じています。そういう子どもたちを育てて卒 業するように、全員で教育していきましようということを常に言い続けま した。</p> <p>正直なところ、コロナがあって、交流活動もままならない中で、思うよ うな学校経営ができたかという、ちょっと悔いが残ることもたくさんあ りましたが、できる限り、子どもたちのために頑張ってきたつもりです。</p> <p>今回義務教育学校をどうするかということで審議をしていただいていま すが、福智町としてはやはり新しい教育モデルとして、モデルとなるよう な学校を作りたいという思いがありましたので、ぜひ大牟田市でも、その ような教育を目指して、すばらしい学校を作っていただければありがたい と考えているところです。</p> <p>多分お聞きになりたいことがたくさんあると思いますので、あとは質問 でお受けしたいと思います。</p>
<p>委員長</p>	<p>引き続いて、夜間中学について、委員から説明をお願いいたします。</p>
<p>委員</p>	<p>香川県三豊市に香川県初となる公立夜間中学、さらには不登校特例校の 指定を受けた学校に勤務しています。同時に、三豊市の総合政策アドバイザー として、市の教育政策について一緒に奮闘しているところです。</p> <p>多分、夜間中学というのは、ここ数年新聞や様々なところで聞かれたこ とがある委員も多いと思うんですけども、今日は改めて3つの視点で見 ていきたいと思います。</p> <p>1つは夜間中学とは何だろうということ、そして1つは不登校特例校、 最後のもう1つは、大牟田市における設置の必要性というのはどうなんだ ろうというのを見ていきたいと思います。</p> <p>まず、夜間中学の生徒はどんな人だろうということです。私たちは、昼 間の中学校はすぐイメージができると思います。</p> <p>夜間中学の生徒は、まず未就学者といわれる、いわゆる高齢者の方、そ れから形式卒業者といわれる、例えばいじめや病気等で学校に行けなかつ た子どもたち、そして、外国籍、外国にルーツ繋がりを持つ方、そしても う1つ、学齢期の不登校の生徒となっています。</p> <p>したがって、後半戦では動画も見ていただくんですけども、本当 に今まで見たことがないような学校です。一方、もしかしたら委員の中にも 見たことがある映画ですが、1993年に山田洋次監督が東京の荒川区立第 九中学校を舞台に、夜間中学の映画を作られました。</p> <p>では、歴史や背景はどうかということですけど、実は古くから夜間中学</p>

はありました。例えば、1947年から60年代ぐらいまでは戦争孤児であったり、いわゆる経済的混乱期などで10代の未成年、70年代に入りますと、中国との国交が正常化したということで、残留孤児や引き上げの婦人の方が帰ってこられました。90年代に入ると、入管法の改正等で外国人労働者や、国際結婚で日本人と結婚された方などです。

実は信じがたいことに1955年には全国に89校ございました。しかし1960年代に入った時に、当時の行政管理庁、今でいう総務省が当時の文部省に夜の学校があるから昼間の学校に行かないのではないかとということで通知をしたんです。それによって大きく減少したんですが、やはり生徒さんやそれを支える先生方が、そんな簡単なものじゃないんだということで、近年は約30校前後でずっと推移して参りました。

大きな転機は、教育機会確保法が2016年にできたことです。法律の正式名称は、「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律」といいますが、これは議員立法で、超党派でできた法律です。

この法律ができるまでは、夜間中学は明確な法律の定義がなかったんです。この法律を受けて、文科省は、全都道府県に少なくとも1校、政令指定都市にも1校、設置するよう言っているところです。

2019年に30数年ぶりに埼玉県の川口市、千葉県の松戸市、そして20年には茨城県常総市、21年には高知市、徳島市、22年は香川県三豊市、札幌市、相模原市、福岡市、こちらはご存知の方も多と思いますけれども、きぼう中学ということになります。そして、今年4月は東北初となる仙台市、千葉市、静岡県、神戸市に設置されています。

こちらの日本地図を見ていただくと、白いところはまだ検討すらされていない状況です。九州はいち早く検討がされていて、この近辺はほとんど設置される予定になっています。

東京は8校、大阪は11校の公立夜間中学があります。やはり人権の問題や、様々な社会課題があるところには、夜間中学が作られています。従いまして、夜間中学は、その時代その時代を映す映し鏡というような言い方もされます。

もう1つ、夜間中学と切っても切り離せないのが、識字率、識字の問題です。いわゆる読み書きできるかという話です。世界に目を向けてみますと、中央アフリカであったり、アジアであったり、非識字者、いわゆる読み書きができない人が多いのは発展途上国というイメージです。

一方で、先進国と言われるところは、識字率が高くなっています。しかし、私も驚いたんですが、先進国の多くが識字調査をしていないということなんです。

日本には読み書きができない人はいないとたくさんの人が思っている。それは学校があちこちにあるからなんです。

一方で、岡山と香川で70数年ぶりになる識字調査を国立国語研究所の先生と一緒にしてみたところ、夜間中学生の6割が生活に困難を来す識字だったということです。つまり、6割の生徒が何らか読めない書けないということがわかりました。

2020年に国勢調査が行われたんですが、小学校すら出ていない、いわゆる学歴ゼロの方が9万人以上、小学校しか出ていないという方が80万人おられるんです。大牟田市では、学歴ゼロの方が80名、小学校しか出ていない人が970名もおられます。この数値は最小の数値だと思います。

私も色々なところで、様々な声を聞くのですが、国勢調査の回答用紙を集める人が自分の回答の中身を万が一見たら、自分が小学校も出ていない

ということを知られるのが怖いと、そういう方の証言があることを考えると、この数字は最小の人数だと思います。

こちらのデータは非常に疑問に思われるかもしれませんが。小卒と答えた人の割合です。20代30代40代は、ついこの間まで中学校のはずです。なぜこの人数が小卒と答えるかと言うと、いわゆる不登校で、親がネグレクトで担任の先生が卒業式のときに卒業証書を持ってきてくれて本人に渡ったとしても、自分は実感として、中学校を出ていないと国勢調査で答えているんです。

さらに、その実態は非常に深刻です。24万人以上の子供たちが年間30日以上も学校に行けていません。大牟田市教育委員会の先生にお聞きしたところ、年々増えています。平成29年度は172名、令和3年では329名の子どもたちが家に閉じこもっています。

これは全国のグラフですが、本当にこのデータを見ると右肩上がりです。こちらは2022年の内閣府の調査なんですけど、39歳までは54万人、65歳までは61万人です。実はこの人数は、引きこもりの人数なんです。つまり日本全国で115万人の人々が家から出ることができない状態になっているんです。

外国籍の子供たちも年々増えています。昼間の学校に通ってる子どもたちが13万人です。さらには外国籍で、学校すら行けていない子どもたちが2万人います。これは2019年のデータで、最新のデータでは約半分の1万人ぐらいになっています。それでも1万人の子どもたちが学校に行っていないんです。

その中で、三豊市長はそういう人たちを何とかできないかということで、夜間中学の設置に大きく舵を切りました。

こちらが今の生徒数なんですけど、1年生が8名、2年生が10名、18名の生徒が通っています。三豊市だけではなく、市外からも通学しています。これは様々な効果があります。三豊市を色々な方が知ってくれました。毎日通学もされています。

少し動画をご覧ください。(動画)

こちらは授業風景です。本当に多様な国籍、多様な世代の方が、一緒に学ばれています。この方は87歳、小学校しか出ていない、何とか自分の命が尽きるまでに中学校の卒業証書を手にしたということで通われています。

もちろん楽しい行事もあります。学級活動の時間で、こういう風景はなかなか見ることができないと思うんですが、皆さん本当に楽しまれています。

またコロナ禍というだけではなく、まだ夜間中学が設置されていない県の方が多いため、設置されているところと、オンラインで一緒に交流を進めました。

季節行事や、昼間の生徒さんとの交流もすごく盛んに行おうとしています。昼間の生徒さんからすると、自分のお父さんお母さん、おじいちゃんおばあちゃんの年代の方が勉強している様子を見ただけで、勉強の意義を確認するとか、自分に問うたりしている姿も見られます。

こちらは終業式の様子です。通知表を渡していただいて、何歳になっても通知表を皆さんドキドキして見られているというシーンです。

もちろん、昼間の学校とカリキュラムは同じなので、入学式、それから避難訓練、身体測定、家庭訪問、文化祭などもあります。

そして、今日皆さんにどうしてもしっかりとお伝えしたいところは、現在全国に44校、公立の夜間中学があるんですが、唯一15歳未満の子ども

	<p>たちを受け入れたということです。</p> <p>まず1本目の動画をご覧ください。(動画)</p> <p>実は、この男の子は広島県に住んでいましたが、お父さんが香川県に単身赴任で来られたときに、地元のテレビを見て、うちの子にいいのではないかとということで、家族の相談のもと、一家で引っ越して来られて、こちらに転入をされました。</p> <p>最初の頃は本当に無口というか、何もしゃべることができず、卒業後の進路も決まっていなかったんですが、今は高校に行っています。本当に私達も涙が出るぐらいうれしかったです。</p> <p>そして、次の動画なんですけど、この女の子は顔を出して、取材に応じています。徳島県からほぼ毎日、香川県に通学をしています。(動画)</p> <p>不登校の一番の原因は、やはり人間関係と言われています。もう1つ、この子の場合、起立性調節障害という、午前中、午後、昼間の時間帯にホルモンバランス等の問題によって起き上がれないという身体の問題があるんです。しかし、夕方や夜は普通の生徒と同じように動き回ることができる。そういう生徒さんは、不登校の中で一定数おられるんです。</p> <p>例えば、もちろん私は否定してわけではないんですが、フリースクールや適応指導教室がありますが、すべて昼間の時間帯が基本なんです。</p> <p>ですから、多様な選択肢のうち、特別な時間帯の夜にやるというのは、やはり大きな意味があると思っています。</p> <p>もう1つ、この言葉を今日は紹介したくて持ってきたんですが、佐賀県の女の子が、書いた言葉です。</p> <p>「なんできたと、恥ずかしい」。フィリピン人の母を持つ小学校6年生は母に来て欲しくなくて、学校行事の案内を渡さずにいた。なぜか当日姿を見せた母に向かって、彼女はこう叫ぶ。高校生になってこの時の母の後姿を思い出し、ごめんなさいと嗚咽する。</p> <p>子どもが初めて背負った深い社会的な傷。これに限らず、日本社会は今こうした酷薄な地肌をさらし続けている。</p> <p>夜間中学には、フィリピンの方や外国籍の方が多いです。国際結婚等によって日本に来られて、日本語の読み書きができない。さらには、子どもが学級通信を持って帰っても、何が書いてあるか読めない。大牟田市、福岡県にもたくさん外国籍の方がおられます。子どもにもお母さんにも辛い思いをさせたくない。そういう意味では、ぜひこの大牟田に、夜間中学ができてくれたらと思っています。</p> <p>夜間中学が設置されると基礎教育の保障が実現されます。多様な選択肢が確保されることによって、その学校しか行けない子どもが救われます。</p> <p>何よりも、まさに今苦しんでいる不登校の子どもたちの学びの保障を一緒に考えてあげることができると思います。</p> <p>以上、私からの説明でした。</p>
委員長	<p>それでは、説明が終わりましたのでここで休憩をとりたいと思います。</p>
	<p>(休憩 7分)</p>
委員長	<p>それでは、時間になりましたので再開をいたします。</p> <p>休憩前にお話したとおり、質問、ご意見等をいただきたいと思います。</p> <p>すべてお受けしたいと思いますが、限られた時間ですので、皆様のご協力をよろしく願いいたします。</p> <p>まず、委員から説明をいただいた義務教育学校について、質問、ご意見</p>

	等をお受けいたします。
委員	<p>松原中学校で教頭をしております。</p> <p>9年間という時間軸を使った教育活動、そして、いわゆるまちづくりに対するコミュニティづくりにも繋がると思い、すごく興味を持たせていただきました。</p> <p>前回の会議の時もそうだったのですが、校舎の老朽化という話が出ておりましたので、私は松原中に勤務しておりますので少し意見を申し上げさせていただきます。</p> <p>いわゆる雨漏りは、すでに先日の大雨のときも、ポリバケツに半分程度週末でたまるなど、頻繁に起こっております。また、地域の方が授業参観に来られたり保護者の方が来られた時に、廊下を歩くたびにギシギシ音がしたり、玄関先の上のブロックというか、コンクリ片が落ちてきたりと、かなり老朽化が進んでおります。</p> <p>保護者の方からも、もちろん愛着はあるが古いと、どうにかならないかという声が聞こえておりますので、教員側としても、保護者、地域の方としても、老朽化対策をぜひ早急に進めていただきたいと、松原中学校に勤務している私からの意見として申し上げさせていただきたいと思っております。</p>
委員長	校舎の老朽化がかなり進んでるというお話でございました。ほかにありますか。
委員	<p>私は以前、松原中学校に隣接する大正小学校に勤務しておりました。</p> <p>大正小学校も松原中学校と同じく、施設の老朽化がかなり進んでいます。かなり昔の建物になりますので、具体的に言いますと、ベランダがまずありません。ベランダがない分、日光が教室に差し込み、学習に支障が出るという時もありました。</p> <p>また、ベランダがない分、手洗い場が廊下の方にありますので、子どもたちも給食の時間、絵の具の片付け、習字や掃除に関しても使い勝手あまり良くないという思いがありました。</p> <p>松原中学校と同じく、施設の老朽化が進んでおりますので、子どもたちにとって良い環境で教育を受けさせたいという思いもあり、施設の建替えをぜひ検討していただきたいと思っております。以上です。</p>
委員長	<p>老朽化に伴う建替えの時期とのタイミングです。委員からも、金田義務教育学校がそういうタイミングがぴたっと一致したという話がありました。</p> <p>施設の老朽化の件が続けて出ましたけど、事務局、現在はこういった状況なんですか。</p>
学務課 主査	<p>現在2校とも、安全対策を行いながら使用しているところです。</p> <p>教育委員会としては、長寿命化という方法ではなく、建替えの時期に来ているということで考えております。</p>
委員長	<p>改修するのではなく、建替えの時期に来ているのではないかということですね。</p> <p>建替えの時期まで、改修をしながら寿命を伸ばしていくんでしょうが、そういうことも限界に来ているということですか。</p>

学務課 主査	両校とも、改修は数十年前に1回行っており、他の学校と比べると一応改修済みということになりますが、元の校舎の作りが古く、どんなに改修しても雨漏り等が起こるということで、限界に来ている状況と考えてるところでございます。
委員長	その他何か質問ご意見等ございませんか。
委員	<p>学校行事、学校生活を送る中で、小学生、中学生、先生方がそれぞれ普段から交流があることは、コミュニケーションの深まりとともに、安心感や信頼感がとても根付く、よりよい環境の学校になると感じました。</p> <p>その結果、先生がすごくこだわられたクラス編成、上に上がり下に下がるという、5、6年生と、馴染みがあるので小学生・中学生と言わせていただきますが、中学1年生が同じフロアにいるということは、中1ギャップや不登校の問題も軽減されるのではないかと考えて、お話を伺いました。</p> <p>児童生徒の不安が薄れるということは、学校生活がとても楽しく、大変充実した生活になるのではないかと思います。</p> <p>そこで2点質問がございます。先生のところはとてもこだわってなさってこられて、大変興味深く伺いましたけれども、異学年交流の一般的な良さを教えていただきたい。大牟田市の小学校でも、縦割り活動というのがあり、私の子どもたちも経験して参りましたが、9年生までいるという良さを少し教えていただきたいと思いました。</p> <p>また、5、6年生と中1で、先生方が中学校の方に教えに行かれるというお話がございましたけれども、先生方の教員免許について、勉強不足なもので、教えていただけたらと思います。</p>
委員	<p>1つ目の質問になりますが、異学年交流の良さについて、前期課程と後期課程と一緒に生活をする中で、コロナでなかなか交流ができないという話をさせていただいたんですけど、一番感じたことは、いわゆる中学生、後期課程の子どもたちの表情が非常にやわらかくなったんです。</p> <p>どうしても中学校3年生というのは、少し言い方が悪いですが、いきがってというか、偉そうぶらないと駄目みたいな思いの子どもたちが多い学校でもあったんですけど、小学生と生活をしだして非常に表情がやわらかくなったというか、優しくなったんです。</p> <p>それはもう一緒に生活するだけで変化が見られたので、もっと交流ができればもっと良い表情だったり、お世話をする姿が見えたのではないかと思いますので、年齢が離れた異学年交流のよさというのはとてもあると思っています。</p> <p>2つ目の教科担任と絡んで、前期課程、後期課程、小・中の先生方の交流と授業のあり方ですが、実は少し免許の壁があって、小学校免許、中学校免許が違いますので、なかなか難しい面があるんですが、小学校と中学校に上下はないんですけど、教科に関しては、一応中学校の免許が上位免許と言われてまして、上位免許を持っていると小学校で教えることができます。</p> <p>ですから、簡単に言えば、中学校の先生は自分の教科であれば小学校に行って、その教科だけを教えることが可能ですので、教科担任制ができれば、中学校の先生が5、6年生の例えば算数や国語、家庭科、体育を教えることは可能ということ、調べてわかっておりましたので、行うつもりでした。</p> <p>それと、先生方がどういう免許を持っているかを調べたんですが、意外</p>

	<p>と中学校の先生が小学校の免許を持ってなくて、私も実は持ってないんですが、小学校の免許を持っている方は2人しかいませんでした。</p> <p>小学校の先生で中学校の免許を持ってる方は半分いました。ですから、可能性論としては、免許を持っている先生がいれば、小学校6年生の担任が、7年生の担任をすることも可能だったんです。</p> <p>このように、様々学校経営上の工夫をすれば、色々な先生方の交流もできたかなと考えております。</p>
委員長	<p>いわゆる教育系の大学だと、小学校の免許、小学校課程をとると副免で中学校の免許が通常は取れますよね。</p> <p>委員がおっしゃったように中学校と小学校の免許を一緒に持ってる人はそんなにいないんでしょうね。</p>
委員	<p>たまたま金田義務教育学校だけかもしれませんが、いなかったです。</p>
委員長	<p>免許については、まだ原則ですよ。だから、その間に取っていかれたらいいのかなと思います。</p>
委員	<p>やはり両方の免許を持ってる方にできるだけ来て欲しいと希望をしていたんですが、現実問題、なかなか難しかったです。</p>
委員長	<p>その他何かありますか。</p>
委員	<p>宮原中学校の校長をしています。</p> <p>本校は、1つの中学校と3つの小学校で2年間小中一貫教育を試行的に行ってきました。本年度から本格実施になりましたけれども、取組みの成果について、3点述べさせていただきます。</p> <p>まず1点目に、小学校・中学校の職員間の交流として、教員全員による授業参観を小・中で行いました。時には小学校の授業に中学校の教師が、逆に中学校の授業へ小学校の教師が携わってきた部分もあります。教科によっては、別の日程で、中学校の教員が出前授業として、小学校で授業したのもありました。</p> <p>ただ、1つの中学校に対して3つの小学校ですので、なかなか調整が難しく、小中一体型の義務教育学校であればスムーズに行えるだろうと感じました。</p> <p>2点目としまして、異学年交流について述べさせていただきます。</p> <p>行事による交流をいくつか行ってきました。日常的に交流を行う環境があれば、中1ギャップと言われる中学校進学への不安が解消されるのではないかと感じました。</p> <p>3点目に不登校児童生徒の減少についてです。これについては、小学校から中学校の進路の不安に向けて、スクールソーシャルワーカーが連携の窓口となっています。9年間の継続的な支援にスクールソーシャルワーカーが役立っていますが、時間をかけた支援や、兄弟姉妹の情報共有がもつとできれば、色々な対策を講じることができるのではないかと考えます。</p> <p>小中一体型の義務教育学校であれば、そのような点でも不登校減少に向けて、色々な取り組みやすさが出てくるのではないかと考えております。</p>
委員	<p>他の中学校区内においても、乗り入れ授業的なことは、実践されており、6年生へ中学校の先生が直接指導する出前授業は、どこの学校でも大体行</p>

	<p>ってあると思っております。</p> <p>中学校の先生から直接教えていただけるので、小学生にとっては、中学校への不安感がなくなり、安心して中学校に進学できるという利点があると思います。</p> <p>また前任校の倉永小学校では、中学生が本の読み聞かせに来ており、児童・生徒の交流もできているところです。</p> <p>校長が言われましたが、一体型の義務教育学校になると、今以上に取り組みやすくなるかと思っております。</p>
委員長	<p>それぞれ、小中一貫教育を推進されている先生方からのご意見でした。</p> <p>乗り入れにしても、異学年交流にしても、特に宮原中学校区については今年度から本格実施ということで、実績が出てるということを聞いております。義務教育学校にすれば、より一層効果が出るのではないかとのご意見でした。</p> <p>その他何かありますか。</p>
委員	<p>初代校長先生は大変だったと思います。</p> <p>素晴らしい内容だと思いますけれども、今は学校を離れて、県の教育委員会で主任指導主事としていらっしゃいますので、あのときこうすればよかったとか、課題として感じてあることについて、差し障りがない範囲で、お聞かせいただければと思います。</p> <p>県立学校も、ご承知のとおり中等教育学校が輝翔館にございまして、私も県の教育委員会に勤務の折には担当もしており、素晴らしい取り組みをやっておりますけれども、やはり課題がございます。</p> <p>福岡県で唯一の中等教育学校でもございますので、先生方も含め、非常に志高く取り組んであり、様々な苦難を1つ1つ乗り越えてきてある感じがいたしますけれども、おそらく義務教育学校も、何らか手だてが必要な部分があるのではないかと、差し障りがない範囲でお聞かせいただければと思います。</p>
委員長	<p>私も実は同じようなことを考えてました。</p> <p>今、期待される効果を先生方に仰っていただきましたが、逆に初代校長として2年間経営・運営する中で、例えばこれが課題とか、これはうまくいった、これはちょっと懸案であるとか、そういうことをお尋ねしたいと思います。</p>
委員	<p>小学校の先生と中学校の先生が一緒の職員室で生活して、一緒にやっていくというのが、当初は本当に大変だったと思います。</p> <p>子どもたちに向き合う姿勢等も、基本的には同じなんですけど、やはり違う環境の中で生活している者が、一緒の職員室で過ごすということの大変さです。色々な仕掛けをしたんですけど、先生方の意識をどう変えていくかということが多分一番の課題だと感じたところです。</p> <p>ただ、それは時間が解決します。最初の年はやはりすごく違和感があったのですが、2年目になるにつれて先生方も少し入れ替わったんですけど、かなり仲も良くなりますし、色々な話ができるようになります。色々な話ができるようになると、やはり子ども中心にすべてが回っていきます。</p> <p>最初は、やはり自分たちのやり方を押し通す方が強かったんですけど、子どものために何が必要かというところが論議の中心になってくると、大分うまくいくようになってきました。今年4年目を迎えていますので、そ</p>

	<p>ういう面ではかなり進んでるのではないかと感じているところです。</p> <p>それから、中学校と小学校で会議のシステム、1つ具体例を言いますと、朝の朝礼をするかどうかとか、そういうところから全く違う文化がありまして、小学校は基本的に朝礼のない文化でやっていた学校で、中学校は毎朝朝礼がある文化で、そこをどう調整するかです。</p> <p>研修のあり方も、小学校の研修のあり方と中学校の研修のあり方をどうするかということで、自分は2年間準備に携わることができましたので、できるだけ1つの学校という思いの中で、会議にしても、研修にしてもやれる仕組みをどんどん作っていかうとした側だったんですけど、そこに先生が最初は戸惑いがあったというのがありました。</p> <p>ただ、これも時間が解決するというか、やっていくうちに、それが当たり前になってきます。</p> <p>だから2年間で一番苦労したのは、小学校と中学校での先生方のやりよりの違い、それをいかに埋めるかではなく、新しい学校のやり方をいかにみんなで整えていくかというところが、校長、それから同じ管理職が苦労した面ではないかと思えます。</p> <p>ただ、やはり若い先生が順応するのが早いです。すぐ小学校、中学校、仲良くなりますし、一緒にやろうという声はやはり若い先生方から上がりだしたので、そういう意味では我々も助けられた面が非常に多かったと思えます。</p> <p>それから子どもたちにとっては、あまりマイナスは見えなかったと思えます。生徒会や児童会は既存のものをそのまま残したんですが、当初校長としては、生徒会一本にして児童会はやめようという話もしたんですけど、そこは小学校のこだわりがあって、児童会も残しつつ、コラボしながら色々なことをやりましょうということになり、それは結構うまくいきました。</p> <p>だからやはり子どもたちと同じ発想で、先生方と一緒に考えながらやっていけば、すごくいい方向に行くんだと私自身も感じました。そういう面で、苦労と喜びと両面入り混じった2年間だったと思えます。</p>
委員長	<p>貴重なご意見でした。</p> <p>もともと小学校・中学校の文化は、何十年前から見たら考えられないんです。今は小中の連携をずっとやっていますので、その辺の文化をいかにうまく融合して、子どもたちをいかに育て上げていくかということに尽きるでしょう。</p> <p>まだまだお聞きしたいんですが、私から事務局の方に質問です。</p> <p>ただいま義務教育学校について委員から説明を受けて、委員の方からご質問等を受けました。</p> <p>この義務教育学校については、前回も経緯等がありましたけれども、市の基本方針で、小中一貫教育制度の点検評価をする中での検討事項ということになっておりましたが、教育委員会として、どのように考えておられるのかということ伺いたしたいと思います。</p> <p>教育委員会としてどう考えているかが大きなポイントになるかと思えますので、よろしくお願ひしたいと思います。</p>
学校教育課長	<p>小中一貫教育制度を導入しておりますので、その良さをさらに生かすことが大事と思っております。</p> <p>先ほど宮原中学校の点検・評価ということで、校長や教頭の現場の声があったとおりですが、乗り入れ授業の良さが生かせるということ、児童生徒の異学年交流が効果的に実施できること、スクールソーシャルワ</p>

	<p>一カーや教師間の連携により不登校が減少できること、また、先ほど委員が言われた先生方の交流の件ですが、現在小中一貫教育制度を導入しておりますので、小学校と中学校の先生方の交流時間がかなり増えております。</p> <p>月1回程度は様々な研修会をしておりますので、先ほど言ったような、小学校のやり方とか中学校のやり方ではなく、子ども中心の議論をしてくださいということをつつも校長先生が言われています。ですから、そういう壁は大分少なくなっていくのではないかと考えています。</p> <p>また、松原中学校の意見も出ましたが、松原中学校に関しては、前回も少し話しましたが、文部科学省の指定で魅力ある学校づくりということで、松原中学校と大正小学校、中友小学校が生徒指導絡みで、小中連携の取組みを実際行っており、その取組みが今も続いていると聞いております。</p> <p>例えば、中学校の体育会に小学校の生徒が参加するとか、行事等も一緒に行われていると聞いておりますので、そういう小中一貫教育の素地があるということ、また、老朽化の話なども考えると、義務教育学校ということも一つの方法でないかと考えております。</p> <p>また、松原中学校と大正小学校がすぐ隣にあるという立地条件から見ても、義務教育学校というのにも検討すべきだと思うところですよ。</p> <p>さらに、小中一貫教育制度を説明する地域説明会等の中で、松原中学校区からのみ、義務教育学校の要望が出ていました。パブリックコメントでも、松原中学校区の方からのみ、義務教育学校を検討してくださいという要望が出ていたところですよ。</p> <p>今後、小中一貫教育を進めるにあたり、現在は併設型で行っておりますが、松原中学校区に関しましては、義務教育学校ということも含めて、検討することも考えられるのではないかと考えているところでございます。</p>
<p>委員長</p>	<p>よくわかりました。</p> <p>ここで、これまでの協議内容、そしてただいまの教育委員会の考え方を踏まえて、今後の方向性を思慮しながら、まとめたいと思います。</p> <p>小中一貫教育を推進する上で、義務教育学校の特長である組織運営の一体化、それと施設形態の一体型となることで、前回も出ておりましたけれども、中1ギャップの解消や不登校の減少、それから先ほど来、協議の中でもありました異学年交流や乗り入れ授業などにも、より大きな効果が期待できる。</p> <p>また、松原中学校区におけるこれまでの小中一貫教育の取組みや、地域からの要望、まちづくりの観点からも、義務教育学校の設置について、前向きな検討を考えられたい。</p> <p>このようなまとめで、皆さんいかがでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>その際に、再編する地域ですね、小中学校3校が1つの義務教育学校になっていく中で、どういうふうにして他の校区の地域との繋がりを新しい学校につなぎ直すというか、そういった視点もぜひどこかに入るといいかと思うんですけども、いかがでしょうか。</p>
<p>委員長</p>	<p>ただいまのご意見について、また次回のまとめで考えていきたいと思っております。</p> <p>それでは次に、委員からご説明いただいた夜間中学について、ご質問、</p>

	ご意見等お伺いしたいと思います。
委員	<p>夜間中学の心に響く説明ありがとうございました。</p> <p>現状の話やVTRを見て、学び直しはとても大切で、素晴らしいことだと思いました。</p> <p>そこで、色々な世代の方が一緒に学ぶことの良さや意義を教えてくださいたいと思いました。</p> <p>また、昼間の中学生との交流などがあれば、その様子やお互いの思いなどを教えていただければと思います。</p>
委員	<p>やはり年齢、世代が様々で国籍も違う生徒さんが一緒に学ぶときに、例えば英語の授業でも、中国の子や韓国の子がいると、中国語と英語は文法が同じだとか、韓国語は日本語と同じだとか、毎回の授業が国際交流みたいな感じなんです。</p> <p>そしてよく10代の生徒さんがおっしゃるんですけども、本当に安心して勉強ができるといわれます。昼間の学校は、私たちの言葉で言うと「同質集団」、同じ年齢で1つ失敗したり、友達といざこざが起こったりするともう学校に行きにくいとか、クラスに居づらいということが起こる。それに比べて、お父さんお母さん、おじいちゃんおばあちゃん世代であり、一方で同じ生徒、同級生という、本当に安心安全に勉強できるんだと思いました。</p> <p>実はいい面ばかりでもなく、大変なこともあります。例えば不登校の子だと、もともとその学校に1回も来ていない子が1回2回来ると、つつい昼間の先生から、もっと学校に来てみたらどうかというような雰囲気を出されてしまうことがありました。</p> <p>まだ夜間中学というのが、現場の先生にもあんまり周知されていないので、やはり教育委員会が主導して、先ほどの義務教育学校と同じですが、例えば、手挙げ方式というか、興味がある先生に中心的に来ていただくという方がいいのではないかと思います。生徒さん自体に課題というよりも、そこを支援する教師の側というのが大切になってくると思います。</p>
委員	<p>生徒さんとのコミュニケーションというのもわかるんですが、私も小学生の親でありますから、本人の問題でもあると思いますけど、夜間中学にした時の親御さんや家族とのコミュニケーションや連携というのはどういうふうにとられてるのかと思いました。</p>
委員	<p>すごく大切で鋭い質問なんですけれど、実は学齢上16歳を超えてしまうと、保護者がいない現象が起きているんです。PTAというものがない状態です。</p> <p>ですから、学齢期の子は辛うじて保護者と密な連絡を取るんですけど、例えば70代80代になると、お父さんお母さんがもうおられないとか、50代に関しても、天涯孤独だという方も多いので、その辺は実は難しさでもあります。</p>
委員	<p>私一個人の考え方として、学校と親と子どもたちの連携が取れていないと思うんです。</p> <p>特に夜間中学となると課題がある子どもというか、言葉が悪いですが、そういう人たちに対して、先生と親御さんとどういう対応をしているのかを聞くと、私たちも勉強になるのかなと思います。</p>

委員	<p>実はすごく難しい問題で、保護者に当たる方がいないときに、生徒に問題行動があった場合、その生徒さんと学校や教職員が向き合うしかないんです。</p> <p>そうなっていくと、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーを昼間の学校よりも手厚く置くべきですし、厳しいケースの場合は、スクールロイヤーのような介入も必要になってきます。</p> <p>ですから、制度上は昼間の学校と同じなんですが、細かい運営面では、生徒が成人の方ということもあり、難しいところです。</p>
委員	<p>大牟田市でスクールソーシャルワーカーのスーパーバイザーをしております。</p> <p>これまで色々な子どもたちとかかわらせていただいた中で、義務教育で十分に教育を受けられないまま、何らかの高校とかに繋がって卒業していく子どもたちがたくさんいました。</p> <p>やはり学力の積み上げがない中で高校生活がうまくいかなかったり、中途退学という形になってしまった子どもさんも非常に多くて、改めて夜間中学の必要性というのを感じたというところなんです。現在、義務教育に所属している子どもたちの中にも、その同一性がともしんどいという子どもが多くて、先ほどお話しいただいたような起立性障害のようなこともあります。ハイリー・センシティブ・パーソンを持っている敏感すぎる子どもさんも、同級生との交流が非常に近すぎて刺激になりすぎて、集団が怖いみたいな子どもさんが非常に多くて、そういう時に色々な人が混ざる環境の方が楽であるとお話いただくことも多いので、こういう選択肢が増えることは非常に大きな意味があると感じました。</p> <p>その中で質問したかったことは、夜間中学に必要なサポート体制、先ほどお話しいただいたかと思うんですが、だからこそやはりサポート体制も充実させていく必要があると感じたので、もしも追加があれば、こういったサポート体制があつてよかったとか、あるといいなというところでご意見いただけたらと思いました。</p>
委員	<p>本当に大切な質問で、この委員会が義務教育学校や夜間中学が必要かどうかという大枠を決める会だと私は認識してるんですけども、仮に具体になった際には、夜間中学設置検討委員会というような中身を決める会は必ず必要と思います。</p> <p>例えば、就学年限、いわゆる在籍年数ですが、通常の中学校の場合は3年で修了して卒業ですけど、やはり公立の夜間中学は3年では厳しい方もおられます。</p> <p>三豊の例では、すでいわゆる自己留年、原級留置を希望されて、1年生を2回されている方もおられます。</p> <p>それから、その設置検討委員会のメンバーには、スクールソーシャルワーカー、例えば県の代表の方であるとか、スクールカウンセラー、臨床心理士の代表の方とか、ある程度入っていただいた方が、何か事があった時に優先的に人員をつけてくださる率が高いです。</p> <p>そういう意味では、三豊市の場合は、設置検討委員会の後に、いつまでという期限は設けていないんですけど、夜間中学協議会を作って、県の精神医療センターの方、臨床心理士、それから学校長会の会長も入れて、協議している状態です。設置検討委員会のように、かなり回数があつてタイトというわけではないんですけども、学期に1回程度、こうやっていくという大きな枠組みでのサポートなのかなと思います。</p>

	<p>厳しいところですけど、例えば三豊も教員の加配がついておらず、いわゆる教職員定数の義務標準法の中での人数で行っています。そうすると、不登校の子もいる、それから例えば、境界性パーソナル障害のような、ご自身では普通のつもりだけれども、相手を攻撃してしまう方もおられます。</p> <p>そういうことを考えていくと、やはり市費の学習支援員や、地域に根差した学習支援ボランティア、今日も地域の方もたくさん来られていますので、そういう方が積極的にサポートに入っていくと、名実ともに開かれた学校になっていくのかなと思っています。</p>
委員長	<p>そうですね。具体化していく中で、そんなにまだ全国的に設置されていませんので、例えば大牟田でやるとしても、色々な課題等があると思いますので、検討委員会などきちんとした組織化をして、運用を決めていくということが非常に大事であろうと思います。</p>
委員	<p>今日の検討委員会での義務教育学校と夜間中学の説明については、広くいろんな場で、先生方にぜひ見ていただきたいと思いました。</p> <p>特に意識調査について、私も全然そういう状況にあると知らず、深刻だと思いました。</p> <p>私個人の考えで申し上げますと、委員の発表、ご説明と、事務局で準備いただいている資料を見ますと、夜間中学を設置する、設置しないというよりも、いかにして大牟田に夜間中学を作るかという方向で検討するときに来てるのではないかと感じたところです。</p> <p>特に、再三言われています基礎教育の充実であるとか、多様な学びの機会の確保ということもそうですけど、社会の中に必要な1つのシステムではないかということを感じたところです。</p> <p>高校の話で大変恐縮ですけども、定時制課程の高校は福岡県でも再編整備が進みまして、私が勤務しておりました三池高校も早々に定時制がなくなりましたけれども、現在大牟田北高校が単位制定時制をやっており、県外からの生徒募集を可能にしております。</p> <p>定員の10%を県外からの募集を可能にしており、聞き及ぶところによると、県外、つまり熊本からになりますけど、10%の枠を全部埋めるくらいのニーズがあると聞いてます。</p> <p>様々な学びの機会というのはこれからも考えていくべきだと思いますし、特にまちづくりの視点でも、ぜひ必要だと感じたところです。</p> <p>最後に申し訳ございませんが、不登校特例校の認可を受けるには、何か要件がございますか。できたら教えていただければと思います。</p>
委員	<p>まず、委員が高校の定時制の話に触れてくださったので、お答えの前に少しかお話をさせていただきたいんですが、昨年、香川県にある定時制高校と交流をしました。</p> <p>定時制の生徒さんが本校に来てレクチャーをして、うちはこんな学校なんですという説明をされたんです。それを見た本校の生徒がそこに行きたいと思われたんです。</p> <p>今、全国で定時制というのがどんどん縮小されています。ただ、知られていないとか、どんなものかわからないという可能性が高いと思っています。</p> <p>そういう意味では、夜間中学ができることによって、高校に本当に行きたい、行くべきだという生徒さんが増えるので、ぜひ大牟田市に設置されたら、中高の連携というのもお願いできたらと思います。</p> <p>不登校特例校の回答になるんですけども、まず昼間の学校は、1年間</p>

	<p>1,015 時間という時間数です。しかし、公立の夜間中学は、1 時間目から 4 時間目までしかないため、どう頑張っても 700 時間しか確保されません。</p> <p>文部科学省の見解は、学齢超過者、いわゆる経過者である 16 歳以上は、生活の中で義務教育段階の学びを何らかの形でしているということになっています。したがって、700 時間の時数でも、その 1 年の教育課程は修了とみなすということなんです。</p> <p>しかし、学齢期の子は社会に出ていない、どうするんだということで、不登校特例校というものを活用したんです。不登校特例校は、年間時数が 1,015 時間を大幅に低くして 770 から 80 ぐらいなんです。そこを使うことによって、700 までは減らないけれども、1,015 にする必要もない。</p> <p>今日は、時間の関係で割愛させていただいたんですが、実は週 3 回、学齢期だけ 0 校時というものを作っています。この 0 校時があることによって、大体 770、80 時間が確保できます。</p> <p>しかし、実は三豊の場合は、短期間での申請をしたので、805 時間になったんです。理科の申請の時に差戻しがあり、差戻して無効になると、開校に間に合わないという判断で、理科だけは昼間と同じ授業でいこうという事情がありますので、実は三豊の場合は 805 時間となりました。</p> <p>もし、大牟田市の教育委員会が不登校特例校もということになれば、申請書類は三豊に全部あるので、そこをベースに理科だけ触っていただくと、770 時間ができると思います。</p>
委員長	ほかにありますか。
委員	<p>心打たれるお話ありがとうございました。</p> <p>未就学児が大牟田にもたくさんいるというお話でしたので、これに対して、教育委員会の方でどういう対策をとってあるのか、学校に対しての指導があったりしているのか、お聞きしたいと思いました。</p>
学校教育課長	<p>ご指摘ありがとうございます。</p> <p>やはり多様な場の学びが必要との考えにより、不登校特例校が始まったと思っています。また教育機会確保法でも、必ずしも学校に来なければならないということではありません。</p> <p>不登校の生徒たちには、教育支援センターという学校に行かずに通うことができる学校を紹介したり、フリースクールという違う学校で学ぶことができる場の紹介を行ったりしているところでございます。</p> <p>家にいる子どもたちのところには、訪問指導員が定期的に家庭に行って、見てもらうことも行っているところです。</p> <p>また、外国籍の子どもについては、日本語指導教員という、加配ではありませんが、非常勤講師を県からつけてもらっていますので、その先生を学校に派遣したりしているところでございます。</p>
委員	<p>2 つお伺いしたいんですが、1 つは学齢生徒を受け入れるときに、色々な配慮や検討課題があったと思うんですけども、特に校内で学齢生徒を受け入れる上で、大牟田でもし導入する場合に、検討が必要だというポイントを教えていただきたい。</p> <p>委員のお話を伺いながら、やはり校長あるいは、教育委員会の存在はすごく大きいと思ったので、夜間中学を大牟田で作る場合に、校長、教頭、あるいは教育委員会はこういったバックアップをすると上手く行くのか、委員から見たご意見を伺いたいと思いました。</p>

委員	<p>まず1つは不登校特例校の、目の前の不登校状態の子どもを、本音を話しますと、転校よりもっと重くて、原籍校から転籍をしてしまうんです。例えば、A中学校にいた生徒が転籍をするので、A中学校の卒業証書は出ません。三豊市立高瀬中学校夜間学級という卒業証書が渡されます。</p> <p>そのために、まず、1か月以上の体験入級をしています。その前に2回面談をしています。1つはスクールカウンセラーやソーシャルワーカーの面談、もう1つは教育委員会の指導を中心とした面談です。その後、約1か月以上の体験入級をします。</p> <p>昨年度は、3人のうち1人だけが本格入級にたどり着けました。残りの2人はもう1か月延長、もう1か月延長ということで、中3の子だったので、そのまま卒業してしまいました。ただし、卒業証書は、転籍していないので原籍校の卒業証書になりました。</p> <p>1か月の体験入級を終えると、学校長の見取りを見て、最終的には教育委員会ともう一度面談をして、計3回面談を行います、それで、本人及び保護者の方に来れますかと確認をします。21時前後に学校が終わりますので、学齢期の子は毎回送り迎えです。ですから、その送り迎えもできるかという約束も取り付けます。</p> <p>そうしないと、21時に、そうでなくても夜間中学1校しかありませんので、中には電車とバスで3時間ぐらいかかる徳島県まで帰る子もいますので、親御さんの送迎も可能かということです。</p> <p>2つ目の教職員とか管理職の課題なんですけれども、もし、単独校を作るのであれば、夜間中学専任の校長先生と教頭先生と教職員がいます。しかし、分校形式や学級であれば、昼間の校長先生が兼務になり、夜だけの教頭先生が専任になります。</p> <p>例えば三豊の場合だと、12時30分から勤務時間で21時に退勤時間になるんです。教頭先生まで兼務してしまうと、10数時間労働になってしまいますので、専任の教頭は必要です。</p> <p>校長、夜間専任の教頭は、思いと覚悟がないと続きません。</p> <p>つまり、毎日が生徒指導なんです。それだけの大変な生徒を受け入れるということは、やはり管理職や教職員の覚悟、そして教育委員会の方も、週に3から4日は、10時からの勤務で18時とか19時の少し遅い時間に学校に来て、見守ってくださっているという状況です。</p> <p>これがいつまで続くかはまだ未定ですけど、そういう課題もあります。</p>
委員長	<p>今のお話に関連して確認したかったのですが、いただいた高瀬中学校の夜間学級のパンフレットでは、教職員の構成として、校長、教頭、常勤5名、非常勤6名、養護教諭1名、学校事務1名の15名となっています。</p> <p>校長、教頭は専任ではないということですか。</p>
委員	<p>教頭のみが専任で、校長は専任ではなく、17時以降は残業的な感じで、何かあれば見に行くという立場です。ただし、教頭だけは12時30分から勤務時間なので、21時までは在校されている状況です。</p> <p>実は、全国44校の公立夜間中学で養護教諭がいない学校もあるんです。それを私は知っていたので、設置検討委員会の時に、昼間でも養護教諭がいるのに、夜間だからいないという発想はない、積極的につけるべきということで、現在は、短時間という形で、生徒が来る17時から21時まで保健室が開きます。事務の方も、同じく17時ぐらいから21時までおられ</p>

	<p>るという弾力的な組織編成をしています。</p> <p>基本的には三豊市も大牟田市も、県教委が管轄するところなので、人数についてはどうしても県の指示に頼ってしまわざるをえないんです。ですから、財政の許す限りは、学習支援員さんとか、例えば通訳もつける必要があります。</p> <p>今本校の中国の子は全く日本語がしゃべれません。ですから、終始3人の通訳が曜日で割り振りをして授業を行っている形になります。</p>
委員長	<p>そこなんですよね。例えば市で設置しようとするときに、やはり財政的なものが非常に大きな要素になると思います。</p> <p>例えば、今、具体的に教職員の定数の話がありましたけれども、国は法を作って、これだけ設置促進をする中で、どれだけ加配なりを考えてくれているのかということです。</p> <p>ここで見ると、常勤5名、非常勤6名で11名おります。中学校は9教科ですから、単純に計算すると、何名か余るのですが、おそらく日本語指導に1名、あとはどんな内訳になっているのかということです。</p> <p>さらに、今言った定数上の配置の問題で、いわゆる持ち出しです。国が、教職員定数を出してくる中で、実は足りない部分があります。これだけ持ち出しで市単独で措置しているのがありますというのがもしあれば、教えていただきたいという単純な質問ですが。</p>
委員	<p>設置検討委員会みたいな感じになりましたが、ぜひお答えさせていただきます。</p> <p>まず一つは、特別な予算がつくとつかないという話になりますと、教育機会確保法が理念法と言われるところなんです。罰則規定もなければ、財政的な支援がないという、つまり2016年の教育機会確保法は、はじめて夜間中学を法律的に認めたけれども、そのあとの運用についてが明記されていないんです。</p> <p>今横におられる委員は、基礎教育保障学会で、様々な要望を私たちとともに国にも上げているんですけども、その問題があります。</p> <p>それから、9教科のうち、いわゆる実技4教科はすべて非常勤の先生です。日本語の先生は日本語で雇えないので、社会の免許状がある先生が社会で雇われているけれども、日本語を教えている。その方は、日本語の指導の講習を受けられているので、その方が中心にやっているという形になります。</p> <p>ですから、多分、大牟田市も三豊市も、県教委が加配をつけてくれるか、それと設置検討委員会には、必ず県の方も入れたほうがいいです。そうしないと本当に他人事みたいになると思います。</p> <p>ただ、可能性としては、今北九州と福岡市のきぼう中学校が政令指定都市でできているんですけども、やはり福岡県教育委員会も、国の指示は、政令指定都市及び各自治体で最低1校なので、かなり力はかけてくれるのかなと思います。</p> <p>したがって、そういう意味ではかなり具体的話ではあったんですけども、今から見据えておかないと、できた後にはなかなかうまくいきません。</p> <p>それと、多分人口規模的にすると他の市町も入ってきます。そのときには必ず応分負担ということで、来る市町からお金をいただかないといけないという形になると思います。</p> <p>ちなみに三豊市の場合は、他の市町から1人の生徒につき4万円をいた</p>

	<p>だくようになっています。三豊市や大牟田市の場合は、教職員の費用は県費の負担になっているので、本当にかかった費用だけということで、4万円でもいいということをご参考にしていただけたらと思います。</p>
委員長	<p>政令市の話が出ましたが、政令市はもちろん財政力が高いので裕福ですけど、政令市以外のところは、やはりいかに持ち出し分を少なくするかが、設置するときに市として考える大きな要素だと思います。できるだけ多く補助をいただけたらと思います。</p>
委員	<p>定数のことについてはここでは言えませんが、せっかく県の教育委員会から来させてもらっていますので、思いだけお伝えをしようと思います。</p> <p>先ほど夜間中学の状況を見させていただいて、福岡市のきぼう中学校も視察に2度ほど行かせていただいて、我々も本当に必要感が高いというか、必要性を感じているところがございます。特に県の不登校の状況は、全国よりも大幅に増えてる状況にあり、なかなか厳しいです。</p> <p>あの子たちが将来本当に社会にきちんと出れるのだろうかという心配が我々の中では大きくございまして、やはりいかに色々なところに学ぶ場を確保するかということが、これからの世の中の社会の命題になってくるのではないかと思います。</p> <p>そういう中で、今回大牟田市の方でこのような検討をしていただいて非常にありがたいお話で、なかなか財政的なことは確約できませんけど、できる限り県の教育委員会としても支援をさせていただきたいと思っています。ぜひ前向きにご検討いただければと思っています。</p>
委員長	<p>大牟田市にとって、大変心強いご支援をいただいたような、私は大牟田市の職員ではございませんけれども、心強いご支援だと思います。</p> <p>先ほどから言ってますが、国が「教育機会確保法」を作って、国が設置促進をする、今の県の心強い支援、あとは市がどのように判断をするかです。</p> <p>また元に戻りますが、いかに財政的なところで考えるかだと思いますのでそこが重要な要素ではなかろうかと思っています。</p> <p>最後に事務局に、義務教育学校と同じように、夜間中学について市としてどのようなお考えを持っているのか、確認の意味でもお尋ねをしたいと思っています。</p>
学校教育課長	<p>様々なご意見ありがとうございます。</p> <p>私たちもとても参考になり、勉強になったところがございます。</p> <p>文科省が言っている持続可能な社会の作り手を育てることが、大牟田市も大事だと思っているところです。大牟田市として、誰1人取り残さないということをキーワードにしているところです。</p> <p>そういう意味から考えると、夜間中学は多くの人たちに等しく教育を受ける機会を保障する役割を持っているのではないかと思ったところがございます。</p> <p>また、大牟田市でも不登校数がとても多くなっています。誰1人取り残さないという観点からいうと、不登校特例校についても考える必要があると思ったところがございます。</p> <p>また、前回の検討委員会でもお話をしましたが、アンケート調査を行っており、その中でも、夜間中学に入学を希望したいという生徒がいらっしゃいましたし、追跡調査でも、入学したいという方がいらっしゃいました。</p>

	<p>さらに、令和元年度から様々な市民講演会で説明しており、2月に行った市民講演会では、実際に夜間中学ができれば入学したいという声も直接届いております。</p> <p>以上が、現状でございます。</p>
委員長	<p>それでは、ここでまとめたいと思います。</p> <p>夜間中学については、第2期実施計画において、多様な学習機会の提供を推進するために設置するとされています。</p> <p>学びたい、あるいは学び直しをしたい、このような学びの場を必要としている人を誰1人として取り残さないという観点からも、夜間中学の設置について、前向きに検討していただきたい。</p> <p>なお、夜間中学の設置場所については、これも第2期実施計画にありますが、市の中心部に位置し、駅にも近く、交通の便がよい松原中学校に設置する方向で検討されたい。</p> <p>こういう内容でまとめたいと思いますが、皆さんいかがでしょうか。</p>
全委員	異議なし。

(3) 議事のまとめ、次回の進め方

発言者	発言内容
委員長	<p>今回、大変中身の濃い協議、検討ができました。</p> <p>おかげをもちまして、概ね答申の方向性が整理されたと思います。</p> <p>最後になりますが、議事のまとめ、それから次回の進め方に入りたいと思います。</p> <p>今回の議事のまとめですが、4点について協議をしました。</p> <p>1点目は、中友小学校と明治小学校の再編、それから2点目は白川小学校と平原小学校の再編、この2点について、前回説明を受けた第2期実施計画に係る進捗の整理の内容を皆さんと再確認し、整理とまとめを行いました。</p> <p>次に3点目の義務教育学校と4点目の夜間中学については、それぞれ専門的な立場からの説明を受けまして、質疑を中心に協議をし、まとめを行いました。</p> <p>今回の協議を通して義務教育学校や夜間中学が、これからの大牟田市や、大牟田の教育にとって重要な要素になっていくと感じたところです。</p> <p>以上が、今回の議事のまとめとしたいと思いますのでどうでしょうか。</p>
全委員	異議なし
委員長	<p>次に次回会議の進め方ですが、前半に答申の素案を皆さんに提示したいと思います。素案については、これまでの協議をもとに、私と後藤副委員長で取りまとめたいと思います。</p> <p>続いて後半では、今回この検討委員会に参加いただいたの感想、ご意見を皆さんから各自一言ずつお願いしたいと思います。</p> <p>以上のような進め方でよろしいでしょうか。</p>
全委員	異議なし
委員長	それでは次回の開催等について、事務局何かございますか。

学校再編 推進室長	次回の第3回は、8月8日火曜日の午後3時から、北別館第1会議室で 予定いたしておりますので、ご出席よろしくお願いたします。
委員長	次回の会議について事務局案でよろしいですか。 その他、委員の皆さんから何かございますでしょうか。 ないようですので、本日の協議を終わります。 長時間にわたっての協議ありがとうございました。

3 閉会